

瑞穂地域審議会

提 言 書

平成28年3月29日

瑞穂地域審議会

はじめに

昨年10月11日をもって10年の節目を迎えた雲仙市において、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりを進められてこられたことに對し、心から敬意を表します。

さて、瑞穂地域審議會は、合併から平成26年3月に至るまでの8年間に渡り、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、市長の諮問に對し答申するとともに、瑞穂地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策を提言してまいりました。

この度、私たち15名は、平成26年8月に市長から委嘱を受け、第5期地域審議會の委員として活動を始めて以来、市制施行10周年という節目を迎えた雲仙市のこれまでを振り返る総括的な視点に立ち、合併時に策定された「新市建設計画」を踏まえて策定された「雲仙市総合計画」の執行状況に関する事項に係る市長からの諮問に對し、審議を行なうとともに、地域振興に関して、本地域のこれからの歩みを地域住民の目線から展望し、現状と課題を踏まえた解決策について、「交流施設を活用したまちづくり」と「人口減少」をテーマとした提言書を取りまとめました。

委員一同、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現を切に願っており、その思いを瑞穂地域審議會の提言書として提言いたします。

平成28年3月29日

雲仙市長 金 澤 秀 三 郎 様

瑞穂地域審議會
会長 山口 照男

目次

提言 1 : 「交流施設を活用したまちづくりについて」・・・P 1

提言 2 : 「人口減少対策について」・・・P 3

提言1 「交流施設を活用したまちづくりについて」

1. 現状と課題

本地域の海側には「みずほすこやかランド」があり、宿泊や各種研修会を開催できる施設のほか、千年の湯、多目的グラウンド、テニスコート、プールといった体育施設など多種の施設を備え、地域住民の癒しと健康増進の場として活用されています。また、本地域の山側には、総面積36万平方メートルという広大な広葉樹林公園である「みずほの森」があり、手作り工芸を体験できる「クラフトハウス」やアスレチックが楽しめる「冒険の森」も整備され、キャンプ場は、自然学習の場としての活用が可能です。

しかし、両施設ともに利用者数が低迷する状況にあり、利用の増加に向けた積極的な取り組みが必要となっております。

2. 特に

- ・経営感覚をもった施設運営が必要です。
- ・市内外に対する効果的な周知・広報の実施が必要です。
- ・千年の湯や宿泊施設などサービス業としての特色を備えているため、利用客の満足度の追求に努める必要があります。

3. 具体的には、

[みずほすこやかランド]

- ・施設の稼働率が低い時間帯に限定した割引制度や体育施設利用者の温泉利用優遇措置など、利用客のニーズに対応したサービスの提供が必要です。
- ・体育施設の利用について、地域住民の利用を優遇する制度を設け、稼働率の向上に努める必要があります。
- ・体育施設、温泉施設、宿泊施設が一箇所に存在することは、本施設の強みであり、積極的に市内外にPRし、部活動やサークル活動の合宿等の誘致を図る必要があります。
- ・みずほすこやかランドは、早期に指定管理を行い、経営の安定を図る必要があります。
- ・温泉施設に隣接している瑞穂漁協の直売所施設については、閉鎖されている状態が続いており、施設の有効活用が課題となっております。所有する瑞穂漁協へ働きかけ有効活用を図る必要があります。

[みずほの森]

- ・市内には、多数観光スポットが存在しており、ホームページ上で広報されておりますが、情報数が多く、閲覧者が情報を探しにくい状況にあります。特に本施設周辺は、県の新観光百選にも選定されパワースポットとしても注目されている岩戸神社など、様々なスポットがあり、より詳細な周知広報、観光案内ガイドの育成に取り組む必要があります。
- ・本施設は、全国的に珍しい広葉樹の自然林であり、四季により、異なった魅力があるにもかかわらず

第5期瑞穂地域審議会提言書

わらず、キャンプ場の使用期間が夏期に限定されております。広葉樹の色づく秋期まで使用期間を延長するなど、施設のもつ魅力をより多くの方へ周知する必要があります。

- 本施設の利用者の減少は、学校関係の利用率の低下が一つの要因であると考えられます。自然体験学習を市内小中学校のカリキュラムに含めるなど、子ども達の地域自然環境の意識向上に生かす取組みを実施する必要があります。
- アウトドア施設の充実が、施設の魅力の一つではありますが、キャンプなど、アウトドアに対する知識がなく、利用を敬遠されてしまうことが、施設の利用率の低迷の原因の一つと考えられます。地域の子ども会の指導部長などに対し、施設の利用の提案や、アウトドアの講習を実施するなど、施設利用のメインとなるターゲットを絞り、魅力的な提案を市が積極的に行う必要があります。

提言2「人口減少対策について」

1. 現状と課題

本地域の人口は、平成27年の国勢調査（速報値）によると、5,127人であり、市全体の減少率より若干緩やかに減少しております。しかし、5年後の平成32年時の人口は5,000人以下となることが予想されており、本地域においても、人口の減少は喫緊の課題となっております。

2. 特に

- ・保護者だけではなく、地域住民が学校や、子育て世帯に対する支援の意識を醸成する環境づくりが求められます。
- ・雲仙市の45歳から49歳の方の未婚率は、平成2年当時6.2%でありましたが、平成22年には18.1%と20年間で約3倍に増加しており、地域の少子化の一因になっていると考えられます。
- ・住みやすいまちづくりとは、地域の高齢化が進行している状況から、高齢者が長く安心して住み続けられるまちづくりのことであると考えられるため、対策が求められます。

3. 具体的には、

- ・小学校入学前までの保護者同士が交流できる場を創設し、不安を共有・相談・解決できるコミュニティの構築の必要があります。
- ・育児ボランティアを募り、公共施設や図書館などで短時間の託児サービス等支援の実施を検討する必要があります。
- ・地域内には、活用できるにも関わらず放置されている空き家が多く、人口減少対策として空き家の活用を促進する施策が求められます。
- ・子育て世帯の地域への定着には、公園の整備、小児医院等、子育て環境を充実させる必要があります。
- ・通学路の整備が不十分な箇所があり、市の補助を受け、地域住民で改善をしてきましたが、根本的な問題の解決に至っておらず、本格的な整備が必要です。
- ・婚活に対する関心の高まりを受け、効果的な婚活支援を実施する民間事業者が多く存在するため、婚活支援の民間委託なども視野に入れ、地域の現状に即した支援のあり方の研究や未婚者のニーズの把握及び早急な対策の実施が求められます。
- ・本地域の特徴を整理し、どのような世帯に住んでもらいたいのか、ターゲットの明確化及び、ターゲットに対する積極的な周知・広報を行なう必要があります。
- ・定住促進対策は、将来の雲仙市のあり方に密接に関わる喫緊の課題です。対策を十分に検討し、大幅に予算を割くとしても、効果のある施策を実施することも一策であると考えます。
- ・国道沿いに大型スーパーやコンビニエンスストアができ、生活の利便性が向上しておりますが一方では、地域と密接に関わってきた小規模な個人商店の閉店が決まり、特に車を所有してい

第5期瑞穂地域審議会提言書

ない高齢者の日常の買い物に大きな影響が考えられます。移動販売や店舗への送迎など、高齢者が安心して長く生活できるような対策の検討・実施が求められます。